

2017年10月10日

総選挙の公示にあたってのJAM書記長談話

ものづくり産業労働組合

J A M

書記長 中井寛哉

第48回衆議院議員選挙が本日、10月10日に公示された。

総選挙は、いうまでもなく政権選択の選挙だ。JAMはこの総選挙を通じて、安倍一強政治からの脱却、働く者の視線による『真の働き方改革』の実現に向けた政権交代をめざした戦いを展開する。

この総選挙にあたり、すでに多くの争点が挙げられているが、日々額に汗して働く者にとっては、経済運営や外交・安全保障の課題と同等に、「働き方改革」の問題こそが最大の争点の一つに位置づけられる。2012年から今日まで続く自公連立政権が進めてきた“使用者視点”の労働行政が、勤労者の暮らしだけでなく、わが国の社会構造全体を崩壊させ続けてきた。いま、この時点で楔を打ち込まなければ、後世に大きな禍根を残すことになる。

また、安倍首相の虚を突いた解散戦略をきっかけに、この9月末以降のわずかな期間に、野党の枠組みが一気に流動化した。民進党を支持・支援政党に位置づけてきたJAMにとって、従来の取り組みが困難となる厳しい戦いとなった。JAMは、連合の仲間とともに今日までの状況・経過を鑑み、これまで行ってきた手続きを再確認した上で、本日まで185名の推薦候補を決定した。本日以降も、条件の整った候補者を順次推薦候補者に位置づける予定である。厳しい状況ではあるが、これを乗り越え、勝ち抜くことによって、われわれの次なる戦いへの大きな一歩としていこう。

JAMに集う全国2,000組織・35万人の組合員一人一人の行動こそが、社会を変える大きな力になる。JAMは10月22日の投票日に向けて、安倍政権の下で大きくゆがめられた形で進められようとしている「働き方改革」にブレーキをかけ、働く者自らの手による『真の働き方改革』の実現に結びつける絶好の好機である。われわれは、すべての組合員による投票行動を最大の基盤として、推薦候補者全員の当選を期した取り組みにまい進することをここに表明する。

ともに戦おう！

以上